

平成30年度 一相生市立図書館一

図書館だより (5月号)



〒678-0053

相生市那波南本町11番1号

電話 0791-23-5151

FAX 0791-22-7164

電子メール info@aioi-city-lib.com

<図書館カレンダー> ■は、休館日。祝日も開館しています。開館時間 10:00~19:00

(5月)

日	月	火	水	木	金	土
*	*	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	*	*

(6月)

日	月	火	水	木	金	土
*	*	*	*	*	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5月26日(土)は館内整理日のため休館です。5月27日(日)はペーロン祭のため臨時休館です。今年度の図書館資料整理期間(曝書)は9月に予定しております。詳しくは、図書館だより8月号、ホームページ等でお知らせします。

<5月の行事案内> ♪♪♪みんなおいでよ『子ども劇場』♪♪

日時	行事内容	場所
12日(土) 11:00~	トーンチャイム グリーン♪グリーン♪コンサート	3階 しちょうかく室
13日(日) 11:00~	おはなし会 えほん 『どろんこハリー』ほか おはなし 『鳥のみじい』ほか	3階 えほんのへや (大人も入れます。) おはなしのへや (4才以上対象。大人は入れません。) ☆遅れた人は参加できません。

<2階 思索の広場コーナー>

●特集:『清水邦夫全仕事』全4冊

1階カウンターで貸出し手続きをお願いします。

<読書会だより>

5月の読書会のご案内と、課題図書をお知らせします。

★日時…5月19日(土) 10:30~12:00

★場所…3階 視聴覚室

課題図書は、カズオ・イシグロ/著の『日の名残り』です。

★読書会はどなたでも参加でき、当日参加も可能です。課題図書は事前に読んでおいてください。

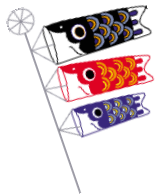
2018年・第60回

こどもの読書週間

4月23日~5月12日

「はじまるよ!本のカーニバル」





おすすめ本（児童書）

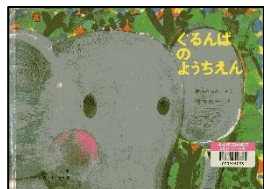


<対象*4才~> 『ぐるんぱのようちえん』

[P-二]

西内みなみ さく 堀内誠一 え

福音館書店



ずっとひとりでさびしくくらしていたぞうのぐるんぱ。大きくなったのにいつまでも何もしないのを心配したなかまたちがぞうのかいぎをひらいて、ぐるんぱをはたらきにだすことにしました。その前にみんなでぐるんぱの体をきれいに洗うと、みちがえるほどりっぱになりました。さっそくびすけっとやさんと働くことになったぐるんぱは、はりきって特大バスケットをつくりました。けれどもあんまり大きくてねだんが高いため、だれも買いません。びすけっとやさんに、もうけっこう、と言われたぐるんぱが次に向かったのはくつやさんでしたが・・・。どんな仕事も長続きしなかったぐるんぱが、最後に見つけたみんなによるこぼれる仕事とは？

なにごとにも真剣に取り組むけれどうまくいかないぐるんぱのゆくえを子どもたちは、本気で心配します。そして最後の場面で緊張が解けてほっとする子どもたちの姿を見ると、絵本の力を感じ取ることができます。

<対象*小学校低学年~> 『みどりいろのたね』

[91-タ]

たかどの ほうこ 作 太田大八 絵

福音館書店

まあちゃんたちのクラスで、はたけにたねをまくことになりました。先生が順番にひとりらこずつたねをくばってくれ、まあちゃんの番がやってきました。するとまあちゃんの口になにか入っています。それは、みどりいろのあめだまでした。先生に口から出すように言われたまあちゃんがあめだまを手のひらに出すと、もう片方の手に先生はたねをのせてくれました。さっそくまあちゃんが土にたねをまくと、まちがってあめだまもいっしょにまいてしまいました。すると土の中では・・・。

土の中で繰り広げられる擬人化されたたねとあめだまのやりとりが面白くどんどん読みすすめられます。絵本から幼年読み物へと移行する段階の子どもたちが楽しめる内容となっています。読み聞かせなら4歳くらいから楽しめますが、あめだまがとけてしまうことと、えんどうまめの関係がまだわからないとあまり楽しく感じられないので子どもの様子を見ながら読んであげてください。



<対象*小学校中学年~> 『小さなバイキングビッケ』

[94-ヨ]

ルーネル・ヨンソン 作 エーヴェット・カールソン 絵 石渡利康 訳 評論社



ビッケはバイキングの子どもです。お父さんは、ハルバルといい、勇猛なことで知られていて、ビッケがオオカミに追いかけて逃げたことを知ると、臆病者あつかいをします。お母さんのイルバは、逆にビッケが知恵をつかってうまく切り抜けたことをほめてくれました。するとハルバルとイルバが言い争いをはじめ、そのうち二人は勝手にハルバルの力とビッケの知恵のどちらが勝つか石運びで勝負することに決めてしまいました。さて勝負の結果は・・・。

心優しく知恵があるビッケの活躍で周りの人たちは、けんかをしていてもすぐ仲なおり。シリーズがあります。



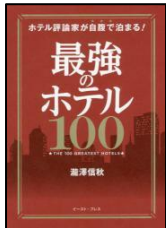
おすすめ本（一般書）



● 『明日のために、心にたくさん木を育てましょう』

若宮正子・著／ぴあ／159

「やりたいと思ったことは、とりあえずやってみましょう」60歳でパソコンをはじめ、81歳でアプリを開発した著者・若宮正子。世界最高齢のプログラマーとして知られる彼女が、人生を楽しく生きるためのメッセージを綴る。



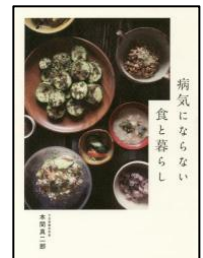
● 『最強のホテル100』 瀧澤信秋・著／イースト・プレス／291

デラックスホテル、アップー進化系&ビジネスホテル、温泉ホテル&旅館…。あらゆるジャンルから厳選したホテルガイド。目的に応じたホテルセレクトの参考になるよう、写真を多く掲載する。

● 『病気にならない食と暮らし』

本間真二郎・著／セブン&アイ出版／498

医の前に食があり、食の前に農がある。小児科医師が那須烏山で春夏秋冬の自然を楽しみながら実践してきた、「健康に生きるコツ」を見つける暮らし方を紹介する。発酵食品、季節の野菜のおかずのレシピも収録。



● 『親子で楽しむおとう飯カレー』 井上岳久・著／徳間書店／596

お父さんも料理をつくって、働くお母さんを応援しよう。料理初心者のお父さんでもつくれるお手軽カレーと、じっくり時間をかけてつくる本格的なカレーのレシピを紹介します。

● 『アウシュヴィッツの歯科医』 ベンジャミン ジェイコブス・著／

上田祥士・監訳／向井和美・訳／紀伊國屋書店／936ページ

1941年、21歳のユダヤ人歯科医学生が強制収容所へ送られた。母は彼に歯の治療用工具箱を持たせた…。機転と知恵を働かせながら、信じがたいほどの試練をかいくぐって奇跡的に生き延びた青年が自ら綴ったノンフィクション。



● 『青空と逃げる』 辻村深月・著／中央公論新社／Fーツ

深夜の電話が、母と息子の日常を奪い去った。疑心、恐怖、そして怒り。壊れてしまった家族が、たどり着く場所は…。一家の再生の物語。

● 『ふたりみち』 山本幸久・著／KADOKAWA／Fーヤ

ひょんなことで負った借金のため、67歳でドサ回りに復帰することになった昭和歌謡の元歌手、ゆかり。知り合った12歳の家出少女・縁が、なぜかゆかりの後をついて来る。いつしかふたりは固い絆で結ばれていき…。



一般書<新着図書>

書名	著者名	出版社	請求記号
自分の終い方	高橋 寛美	綜合法令出版	367
シェフの家呑みおつまみ	依田 隆	秀和システム	596
夢を生きる	羽生 結弦	中央公論新社	784-ハ
極小農園日記	荻原 浩	毎日新聞出版	914-オ
スイート・ホーム	原田 マハ	ポプラ社	F-ハ

一般書<4月分 最多貸出図書>

貸出回数	書名	著者名	出版社	請求記号
6	おらおらでひとりいぐも	若竹 千佐子	河出書房新社	F-ワ
6	小さな暮らしのはじめ方	—	地球丸	590
5	秋霖やまず	佐伯 泰英	光文社	F-サ
5	刑事の怒り	薬丸 岳	講談社	F-ヤ

一般書<4月分 予約の多い図書>

貸出回数	書名	著者名	出版社	請求記号
17	魔力の胎動	東野 圭吾	KADOKAWA	F-ヒ
8	かがみの孤城	辻村 深月	ポプラ社	F-ツ
6	不倫のオーラ	林 真理子	文藝春秋	914-ハ
6	凶犬の眼	柚月 裕子	KADOKAWA	F-ユ

児童書<4月分 最多貸出図書>

貸出回数	書名	著者名	出版社	請求記号
7	さよならさんかく	わかやま けん	こぐま社	P-ワ
6	わんぱくだんのたからじま	ゆきの ゆみこ 上野 与志	ひさかたチャイルド	P
5	おばけのてんぷら	せな けいこ	ポプラ社	P-セ
5	ラストラン	角野 栄子	角川書店	91-カ

※児童書の新着図書は、別紙『平成30年4月新着図書』をご覧ください。

お一人、貸出できる冊数は10冊、貸出期間は2週間です。返却期限をお守りください。延長は1回のみ2週間延長できます。ホームページ・電話で受け付けています。
※貸出日の翌日以降から延長できます。予約が入っている本・返却期限をすぎている本の延長はできません。



【ライブラリアン・レター】

「最初からじゃなくて、パッと開いたページから読むのもいいよ。」その言葉と共に友人から贈られた本を、10年以上も繰り返し読んでいます。手に馴染んだページを開けば、過去に訪れた土地を再び歩いている感覚にさえなる。著者が亡くなって20年以上が経つ今も、私は彼と旅をしている。
(『旅をする木』星野道夫・著//文藝春秋//914-ホ)